

「まちとライフスタイルの明日を探る」セミナー

第一回

エリアマネジメントと 新しい郊外都市

地域管理と運営の
新たなあり方



「まちとライフスタイルの明日を探る」セミナー〈第1回〉

日時 2007年9月26日(水) 14:00~17:00
会場 千里ライフサイエンスセンタービル サイエンスホール
主催 財団法人千里国際情報事業財団、日本経済新聞社
後援 国土交通省、彩都(国際文化公園都市)建設推進協議会
協賛 阪急電鉄株式会社、阪急不動産株式会社

近年、まちの魅力や活力を高める取り組みとして

注目を集めている「エリアマネジメント」。

しかし、その考え方、具体的な内容、担い手のあり方など、

さまざまな課題を併せ持っていることも事実です。

そこで今回は、「エリアマネジメントと郊外都市の目指す方向性」

について、郊外における新たなまちづくりとそこにおける

「エリアマネジメント」の取り組みに関して考えたいと思います。

「郊外都市における エリアマネジメント」

戦後のニュータウンと レッチワースの違いに着目

「エリアマネジメント(地域管理)」という言葉は、聞き慣れない方も多いでしょう。しかし、考え方自体は新しいものではありません。伝統的な村や集落にも存在するもので、「価値観を共有する仕組み」と定義できると考えます。つまり、「個の財産」を「まちの財産」とするためのルールを作り、それを運用して質を高めることが「エリアマネジメント」です。

ところが、戦後の憲法が個の財産を保障したため、共有財産を作っていくまちづくりや「コミュニティづくり」が後回しになりました。そうした価値観の中で建設された多くのニュータウンは、年月が経つにつれ高齢化し、空地や空家が増え、住宅の老朽化、タウンセンターの衰退、宅地の細分化による過密化などの歪みが指摘されるようになってきました。

一方、田園都市の発祥とされるイギリスのレッチワースは、100年以上経った今も生活の質を向上させる取り組みが続けられています。私は1997年から98年にかけてレッチワースに暮らし、約8,000戸の住宅に多様性があり、住まれ続けていることにとても感心しました。訪れる人



■レッチワース上空写真

をやさしく迎え入れるような家々は、住む人の豊かさを象徴しているようでした。また、墓地も整備されており、まち全体が長く受け継がれる場所として開発されたのは明らか。私は日本のニュータウンもレッチワースに学ぶことが大切だと考えました。

神戸「ガーデンシティ舞多聞」 みつけプロジェクトとは

帰国後、レッチワースの100年の経験の功罪を紹介するため、平成13年9月に「新・田園都市国際会議2001」を開催しました。その成果として「新・田園都市コンセプトマトリクス」(※表1)を作成。表中18項目のうち、「営み」と「集住コミュニティ」に相關する6項目が、21世紀の田園都市(ガーデンシティ)のテーマだと結論付けたのです。これが都市再生機構の目に留まり、「ガーデンシティ舞多聞」のマスタープラン提案策定業務

神戸・舞多聞みつけプロジェクトの
実践

100年先を見据えたまちづくりにおけるコミュニティの重要性とは。
新・田園都市構想を採り入れた「みつけプロジェクト」を手掛ける齊木氏のお話は、「エリアマネジメント」の本質を知る上で有意義な時間となりました。

神戸芸術工科大学副学長 齊木 崇人 氏

Contents

第1部 基調講演

「郊外都市における エリアマネジメント」

神戸・舞多聞みつけプロジェクトの実践

講演者

神戸芸術工科大学副学長

齊木 崇人 氏

第2部 パネルディスカッション

「エリアマネジメントと 新しい郊外都市」

地域管理と運営の新たなあり方

司会進行

大阪大学大学院教授・博士(工学)

澤木 昌典 氏

パネラー

神戸芸術工科大学副学長

齊木 崇人 氏

国土交通省 土地・水資源局
土地政策課 宅地整備調整官

釜谷 智弘 氏

阪急不動産(株)
彩都開発事業部担当部長

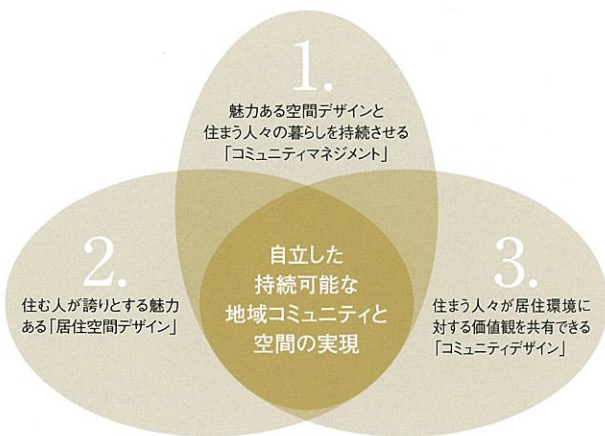
植松 宏之 氏

「エリアマネジメント」とは?

一定の地域(エリア)における地域住民・地権者たちが、地域の安全・安心、美化や公共公益施設の管理、維持・向上などを自主的に行う取り組みのこと。
(合意形成、財産管理、事業・イベント等の実施、公・民の連携など)

NEW COMMUNITY NEW DESIGN	地域 Region+Town	集住とコミュニティ Human Settlement /Community	家族と家 Homes+Houses
自然 Human Society	① 自然生態と豊かな緑を生かす ② 歴史的経験を尊重し新しい計画に取り込む	⑤ 土地に敬意を払う土地利用計画と道路づくり ⑥ 共有する豊かな緑地と眺望を優先的に確保する	⑬ 健康な生活を保障する自然豊かな環境 ⑭ 一体的な敷地計画により広い敷地に緑と庭のある暮らし
営み Sustainable Management	③ 持続可能な成長と発展をプログラムする ④ 適正規模のコミュニティ形成	⑦ 個人よりコミュニティの共有利益を評価する ⑧ コミュニティの共有財産の活用とマネジメント手法の確立	⑮ 優しい表情の安全・安心なコミュニティづくり ⑯ 経済的で持続的な生活の安定的確保
人間 Nature Ecology	⑨ 既存コミュニティとの親しみ連携(ディベロッパー/行政/NPO) ⑩ 地域社会像の目標やテーマを共有化する	⑪ 地域コミュニティの独自のルール形成 ⑫ 人的資源の発掘と人材教育により次世代を育成する	⑰ 多様な規模の敷地に多様な家と家族の共存 ⑱ 住まいづくりの目標を共有化する

〔表1〕新・田園都市コンセプトマトリクス



〔図1〕みつけプロジェクトの3つの課題

を受託することになりました。

「ガーデンシティ舞多聞」は、神戸の都心部から車で約30分、神戸芸術工科大学の約1km南に位置しています。計画人口約8,400人(約2,600戸)、旧舞子ゴルフ場跡地の108haで開発を進めており、完成予定は平成27年。第二工区の約6haには、宅地68区画と街区公園、都市計画緑地が配置されます。これらを都市再生機構が事業主体とし、神戸芸術工科大学が住民を支えて作り上げるという取り組みが「みつけプロジェクト」です。

私たちは、みつけプロジェクトの実践にあたって「自立した持続可能な地域コミュニティと空間の実現」として、3つの課題を掲げました(※図1)。

自然環境を生かすデザインが住宅の持続可能性を高める

そのためにまず考えたのは、住む人が誇りを持てる「空間デザイン」として、周辺の緑豊かな自然環境を生かすこと。そして、適正規模の人々が住む「コミュニティ」をつくる上で、舞多聞と同様の地形を持つ、江戸時代から続く集落の建物配置や敷地割り、人口分布などの特性を評価しました。

また、約120〜500坪のゆとりある宅地を廉価で提供するために、50年の一般定期借地権制度を活用。個々の住宅デザインについても、歴史的風土を生かした農村の民家や町家を手本に「舞多聞型住宅」を提案しました。さらに、みつけプロジェクト内の

保全林は宅地内へ取り込み、居住者が自ら管理する仕組みを採用。こうして、ゴルフ場跡地のなだらかな地形や溜池、樹林帯などをできる限り保全し、敷地と一体化した緑豊かな住宅地と住まいのデザインを実現したのである。

居住環境の価値観を共有するコミュニティづくり

魅力ある住空間を維持し、質を高めていくには、住民同士でその価値を共有しなければなりません。そこで、居住希望者の会員組織「舞多聞倶楽部」を結成し、神戸芸術工科大学が協力して公開講座やワークショップを実施しました。コミュニティの形成には、住環境への意識向上と、住む前から良好な関係を築くことが大切だと考えたからです。

また、みつけプロジェクトの全68区画のうち40区画は、グループ単位で希望の敷地エリアを応募する「グループ募集システム」を採用。このグループを形成するために「どんな家、どんなまち、どんな環境に住みたいか」などを話し合うグループワークショップを開催しました。

数回のワークショップと現地見学会を経て、8グループの募集に対して15グループ、個別募集の28区画に対しては39世帯が応募。平成16年12月の抽選会で当選した住民たちは、「建築協定」「緑地協定」などの構築を目指し、生垣の高さやシンボルツリーの植樹についてなど、様々なまちのルールが住民同士の話し合いによって決められたのです。

魅力ある空間とコミュニティを維持するために

まちのルールが決まれば、それを適正に運用することが重要になります。そのために組織されたのが「建築・緑地協定運営委員会」です。また、「舞多聞倶楽部」が持続可能なコミュニティとして自立するための推進体制も整備されました。

現在、みつけプロジェクト区内は住宅建設ラッシュ。そんな中、ワークショップも継続されており、建築・緑地協定の変更・修正が議論されています。自分たちで作ったまちづくりの目標は守りつつ、時代の要請に応じて修正する仕組みが求められているのです。

次世代を見据えたコミュニティ・マネジメントが、舞多聞の今後の課題。まち全体の環境をいかに向上し、将来に受け継ぐか。100年経っても色あせないレッチワースをお手本にすれば、50年前にできた千里ニュータウンはまだその半分。誕生したばかりの「舞多聞」や「彩都」も、次世代にその価値を誇れるように「エリアマネジメント」の基盤を作ることが大事ですね。



■グループワークショップの様子

「エリアマネジメントと新しい郊外都市」

地域管理と運営の新たなあり方

第2部では、「エリアマネジメントと新しい郊外都市」をテーマにパネルディスカッションを開催。

郊外型まちづくりにおける「エリアマネジメント」の必要性やそのあり方とは——。各パネリストのさまざまな視点から、「エリアマネジメント」について語っていただきました。

「エリアマネジメント」の新たな取り組み

物を作る「から」維持する「時代へ」。
次世代に向けた「エリアマネジメント」の新たな取り組みとは——。



大阪大学大学院教授 博士(工学)
澤木 昌典

(財)関西情報センター、兵庫県立人と自然の博物館等を経て現職。環境共生や自然共生を重視した都市計画・地域計画に関する教育・研究を展開。地域の特性を生かしたまちづくりや環境学習等の市民活動も支援している。

研究室HP <http://www.ses.eng.osaka-u.ac.jp/ud/>

澤木(司会進行) では、まず初めに「エリアマネジメント」の国土交通省での取り組みについてご紹介ください。

釜谷 「エリアマネジメント」は比較的新しい言葉ですが、その言葉通り、「エリア」を「マネジメント」する、つまり、地域の美化、安全・安心、居住環境・市街地環境の維持・向上・管理など、地域ごとの課題を地域住民が主体となって考えていく、という取り組みです。

高齢化や少子化が進み、人口の減少期を迎えた今、これからは「住宅を建てたら終わり」ではなく、それをいかに「維持・持続化」していくかに重点を置き、国土交通省では「エリアマネジメント」の取り組みへの支援を進めています。「エリアマネジメント」の取り組み例として、兵庫県芦屋市・六麓荘では美しい景観を維持

するために地元住民らで株式会社を設立していたり、東京都港区・汐留では、中間法人「汐留シオサイト・タウンマネジメント」を運営し、公共施設の維持・補修等を主体的に行っています。このように、各地域で「エリアマネジメント」の活動が精力的に行われています。

また、国として、今後「エリアマネジメント」の取り組みを続けていく際に起こる課題や対応策などをまとめ、本年度中にマニュアルを作成する予定です。

「エリアマネジメント」の概念はまだまだ未熟な部分もあるのですが、さらなる発展、浸透を目指して、全国6カ所での活動支援や、シンポジウムなどの広報活動を行い、今後も皆様の支援を続けていきたいと考えています。

澤木 「エリアマネジメント」は、国としても今後の取り組みについて精査し、一つの概念にしていく——といった段階にあるようです。しかし、基本的には各地の「自治会」などが取り組んでいる内容でもあり、昔からあったものなのかもしれませんね。

「彩都」では「エリアマネジメント」に

エリアマネジメントにおける当面の対応方策

- ① 国・地方公共団体等の連携の下でのまちづくり・地域活性化に関する支援策の活用・充実
- ② エリアマネジメント組織の設立・運営に関する規約・基準及びエリアマネジメント推進マニュアルの作成
- ③ エリアマネジメントの担い手に関する情報データベースの構築等サイトの立ち上げ
- ④ 支援とあわせた試行プロジェクト
- ⑤ 広報・普及

国土交通省土地・水資源局[平成19年度作成]

どのように取り組まれていますか？

植松 初めに、「彩都」の人口状況についてご説明いたします。2004年のまち開き当初、居住人口わずか290世帯680人だったのが、現在では1,749世帯5,000人超の方が暮らしています。

その発展とともに取り組みを進めている「地域コミュニティ・エリアマネジメント」として、彩都にお住まいの方などでも参加できる住民参加型サービス「彩都スタイルクラブ」(有料)があります。主な活動内容としては、彩都スタイルクラブの会員のみがアクセスできるまちづくりポータルサイト「彩都NAVI」。「どこもをどの幼稚園に入れたらいいの?」「オスメのグルメスポットは?」などといった情報を交換できる場としてご利用いただいております。さらに会員同士で共同利用できる共用施設の提供、地域の方による野菜販売、棚田作り、サークル活動やイベントなどのコミュニティ活動も行い、住民の方に好評いただいております。

さらに「彩都」での特徴的な取り組みの



▲まちづくりポータルサイト「彩都NAVI」

▶カーシェアリング車



Panel Discussion



ひとつとして取り上げたいのが「カーシェアリング」。セカンド・カーを地域のみならず共有することで、エコロジーの観点からも配慮したサービスを提供しています。最後に、子育てサークルや各種教室などのコミュニティづくりの支援・アドバイスなどのライフサービスがフェイストオフで受けられる「彩都サービスフロント」以上が「彩都」での「エリアマネジメント」の主な取り組みです。

澤木 「エリアマネジメント」の一環として、彩都ではさまざまなコミュニティ形成やサービスが行われているのですね。

郊外都市に必要な不可欠な「エリアマネジメント」

住民が安心して暮らせるまちづくりに必要不可欠な「エリアマネジメント」。郊外都市における必要性や課題とは。

澤木 郊外住宅における「エリアマネジメント」の必要性や課題について、どのようにお考えですか。



齊木 崇人
神戸芸術工科大学副学長

神戸芸術工科大学副学長。大学院の運営の中心を担い、院生の指導にあたる。また、大学が都市再生機構と組んで進めている舞多間プロジェクトの責任者でもある。主な著書に「自治体都市計画最前線」（共著・学芸出版社、2007年）などがある。

研究室HP <http://www.kobe-du.ac.jp/env/saiki/>

釜谷 智弘
国土交通省 土地・水資源局
土地政策課 宅地整備調整官



1985年、東京大学建築学科卒業。同年、建設省入省。1992年、与野市役所理事。2003年、国土交通省中部地方整備局都市調整官等を経て2007年より現職。一級建築士。

齊木 まず、住民側の視点で言えば、「一番に挙げられるのが「安全性の問題」」。さらに、「互いに信頼してどのようなコミュニティが作れるか」ということも重要です。同時に、デベロッパー側としては、「住民にとって魅力のある価値」をどのようにして生み出すか、つまりは「住民がその場所をどう評価するか」ということをしっかりと把握すべきですね。もうひとつの問題は、土地の維持・管理の仕組み作りや、次世代の担い手への価値をどう継承していくか。また、行政、デベロッパー、住民の関係をどのように連携していくのか——というソフト面での仕組み作りが今後の「エリアマネジメント」には必要不可欠であり、今後の大きなテーマになると考えます。

澤木 植松さんは、デベロッパー側として「彩都」での「エリアマネジメント」の必要性についてどのようにお考えでしょうか。

植松 阪急電鉄グループが「エリアマネジメント」の必要性として重んじているのは、「資産価値の維持」つまり「沿

線の資産価値をいかにあげるか」ということです。2001年当時、地価下落が続く、都心に人が集中しました。そこで弊社は郊外開発に取り組むにあたり、どうして「資産価値」を高めれば良いか——その答えのひとつに「エリアマネジメント」があったといえます。

その例として、「彩都」で安心して暮らしていただくためのセキュリティサービス「巡回サービス」（登録要）や、このまちの美しさや住環境を守るために制定された「建築協定」など、さまざまな「エリアマネジメント」が資産価値に繋がっていることも事実です。そしてその結果として、「彩都」の宅地価格は上昇し、2004年には「茨木市都市景観賞」を受賞。「彩都」の環境を守っていくことが、資産価値に繋がっていくと実感しております。また、「地域の活性化」も「エリアマネジメント」には重要です。今年行われた夏祭りでは、3,000人もの方にご来場いただき、地域の方が中心になって大成功を収めております。



植松 宏之
阪急不動産(株)
彩都開発事業部担当部長

1986年、京都大学大学院修了。同年、阪急電鉄(株)に入社。1999年、阪急彩都開発(株)取締役開発部長、2006年、阪急電鉄(株)彩都開発事業部副部長を経て、2007年、阪急不動産(株)彩都開発事業部担当部長に就任。



以上のことを考えますと、現在まで取り組んできた「エリアマネジメント」を持続していった結果として、おのずと「資産価値」という付加価値を生み出していったのだと思います。

澤木 「舞多聞」や「彩都」での「エリアマネジメント」に共通するキーワードとして「宅地(資産価値)を維持する」ということが挙げられますね。新・田園都市コンセプトマトリクスの⑦個人よりコミュニティの共有利益を評価する(※P3裏1)参照を例に挙げますと、その土地を住民たちで評価し、維持していく。それは単に物的な資産価値だけではなく、人と人との信頼から生まれるコミュニティの価値。そこそが「エリアマネジメント」に最も重要なことなんですね。

「エリアマネジメント」の新たな担い手

デベロッパーから地域住民へ。

「エリアマネジメント」の発展に必要な担い手をいかに育成していくのか――。

澤木 会場から、「エリアマネジメント」の取り組みを続けていくうえで、その組織の担い手(住民)のリーダーとなる人物をどのように育てていくのかというご質問が挙げられています。「舞多聞」「彩都」それぞれの事例からお答えいただけますでしょうか。

齊木 その点は一番苦労したところでもあります。「舞多聞」では今年9月にも



「ガーデンシティ 舞多聞」位置図

神戸市垂水区の旧舞子ゴルフ場跡地(約108ha)に建設。周辺には、キャンパスやレジャースポットが点在。郊外のゆとりと都心の快適性を備えています。

老若男女の住民が会費100円と食べ物を持ち寄り、ミーティングが行われました。そこで、自らの自己紹介や得意分野などを話しあい、そこから「私は植物係ね」「私は建物係をします」など、それぞれの役割分担が生まれています。そして現在では、1,650人の会員が在籍する「舞多聞倶楽部」が継続し、定期的にミーティングが開催されています。「向こう三軒両隣」という言葉がありますが、その関係を舞多聞でも取り入れ、住民がそれぞれの意見を交換・共有しあい、地域のことを考えていく――それが住民主体の担い手をつくるきっかけになったと思いますね。

澤木 「舞多聞」での取り組みは、「エリアマネジメント」を進めるにあたり、その担い手をデベロッパーから住民に移行していくよい先進事例とも言えますね。

「彩都」ではどのような取り組みが行われていますか？

植松 先ほどもご紹介しました「彩都スタイルクラブ」での取り組みの一つ、「棚

田作り」については、サポーターを結成し、リーダーを募ったところ、今では住民が主体となって活動を続けています。また、今年の「夏祭り」では、住民たちが率先して盛大に開催していたのには驚きました。やはり、「自分たちのまちをよくしたい」という住民の想いから、そんなリーダーシップが生まれているのではないのでしょうか。

澤木 「彩都」では、まさにこれからが「エリアマネジメント」の新たな担い手として、デベロッパーから住民へ「バトン」を渡すタイミングなのですね。「彩都」や「舞多聞」での「エリアマネジメント」の活動事例を聞いて、釜谷さんはどのような感想をお持ちですか？

釜谷 先ほどの植松さんのお話にもありました通り、今後、「エリアマネジメント」は「資産価値」を高める新たなビジネスモデルとして、定着・発展していけばと考えております。ただ、「エリアマネジメント」はまだまだ課題が多いのも現状です。





その一つが「人材の確保」。住民主体の取り組みを進める中で、地域のネットワークを構築できる人材や団体が必要になってきますが、その人材をどのように確保し、育成するのか。さらに、基本的な問題として「公平性のある運営をいかにして作り上げるか」ということも挙げられます。地域の関係権利者や住民全てが公平に利益を享受しながら、持続的な運営を行うためにはどうすれば良いか。有限会社や株式会社を設立するのか、または住民が自主的な取り組みを行うのかなど、各地域によって「課題」を明確にし、組織の規定方法を考えることが大切ですね。



いはいかがお考えでしょうか。
釜谷 実際に、「悪くなりつつあるものをどう改善するか」という問題意識の中で「エリアマネジメント」が行われている地区も少なくありません。しかし、「彩都」や「舞多聞」のように、初期段階から枠組みをしっかり行っていけば、出来上がったものから軌道修正するよりも効率的ですし、そこに暮らす人々の幸せにも直結するのではないかと考えます。

今後、地域の問題や安全性を考える解決策の一つとして、「エリアマネジメント」を行い、「彩都」や「舞多聞」で培ったノウハウを、全国各地の住宅地で取り入れていただければと考えています。



■彩都バイオインキュベータ



■大阪モノレール彩都線



「彩都」への提案

これからますます注目される「エリアマネジメント」。彩都のさらなる発展に必要なものとは――。

澤木 最後に、「エリアマネジメント」の必要性が高まりつつある今、それぞれの観点からの「彩都への提案」をいただけますか。

釜谷 やはりハード面だけではなく、住民の方のライフスタイルを考慮したソフト面の取り組みを今後も行ってもらえればと考えています。来年度、国土交通省では、国内で優良な取り組みを行う地域に贈る「エリアマネジメント大賞」なるものを計画しております。ぜひ、「彩都」も大賞を目指して頑張ってください。

齊木 私からご提案したいのは、まず一つ目に、住民が主体となって活動をする際に、必ず「共有財産」を付加してあげること。それをうまく活用することで、自分たちの活動費用が生まれ、その財産が共有化されていく――。

その仕組み作りが大切ですね。二つ目に、「住み替えの仕組み」を作ること。シングルやカップルの方に子どもが産まれた際に、このまちを離れずに別の家に住み替えることができる。そんな仕組みが生まれたら、住民が「彩都」のまちに愛着を持つのではないのでしょうか。

「彩都」はまだ出来て3年ですが、現在在住の彩都住民とこれから「彩都」

に移り住む方、それぞれがコミュニティを作り、「彩都」の歴史、さらには「コミュニティ」の歴史をも作り上げていくことを期待しています。

植松 これからの「彩都」の成長・発展は「多世代の方が交流していく」ということに繋がっていきます。ですから、すべての人のための住み良いまちづくり、そこそがデベロッパー側の私たちが考えていくべきことなどではないでしょうか。また、住民主体の運営として、「彩都スタイルクラブ」を継続させていくとともに、創薬・バイオの先端的な研究施設「彩都ライフサイエンスパーク」においても、住民との交流を深め、複合都市としての機能を高めていきたいと思っています。

次期集合住宅の取り組みとしては、音楽ルームなどの文化施設の共同利用、戸建住宅では、緑地の共有なども予定しています。さらに、現在「彩都」駅前に建設予定なのが介護施設付きのマンション。「彩都」の1戸建てに住まれている世代のご両親と、共に「彩都」で暮らしていただくための場所としてご用意しております。

今後、「彩都」は、関西のもうひとつの郊外都市「舞多聞」とともに、さらなる発展を目指して参ります。

澤木 本日は「エリアマネジメント」というテーマに沿って郊外都市「彩都」と「舞多聞」を例に挙げてそれぞれお話をいただきましたが、その中で「エリア

マネジメント」の必要性が明らかにできたシンポジウムになったのではないかと思います。地域に愛着を持っていただき、この環境を次代へ受け継ぐ。そのために、「エリアマネジメント」は必要不可欠なものです。そこには、その地域を住民たちで共有できるハード面での仕組みと、住民同士のコミュニティから形成されるソフト面での仕組み、双方の育成が大切です。その上で、住民たちが「より住み良いまちづくり」のためにどのように「エリアマネジメント」していけば良いのか――。その先駆的モデルを作っていく郊外都市として、「彩都」と「舞多聞」に大きな期待を寄せずにはられません。

Access

都心梅田へ18km圏内。
快適なアクセスを使いこなす
都心と結ばれた便利な「まち」。

大阪モノレール彩都線「彩都西」駅より

■ 北大阪急行線
「千里中央」へ 17分

「梅田」へ 35分

※朝ラッシュ時・深夜帯は千里中央～彩都西駅で直通運転。

■ 阪急京都本線
「南茨木」へ 17分

「梅田」へ 34分

※乗り換え時間は含みません。



■ 彩都エリアMAP

戸建・宅地の最新情報や阪急&彩都の歴史パネルを展示！ぜひお立ち寄りください！



Cube3110 彩都インフォミュージアム



阪急電鉄 阪急不動産

0120-5-3110-5
営業時間／午前10時～午後6時(定休日:火・水曜日)

彩都の
ポータルサイト
www.e3110.com